

「研修会等名称」

2013 年度公認スポーツ指導員および基礎水泳指導員義務研修会

場所：日本ガイシフォーラム 第1・2研修室

期間：2014年1月19日（日）の1日

1. 研修の内容

本研修は、愛知水泳連盟が主催となり、水泳指導員（（公財）日本水泳連盟・（公財）日本体育協会）を対象とし、指導員としての資質・技量の向上をはかり、今後の指導に一層の成果を上げていくことを目的として行われた。

本研修のおおよその日程は、午前10時から学科研修が行われ、午後に実技研修が行われた。そして、午後5時に研修が終了した。各研修内容を以下に示す。

午前中の1つ目の研修は、馬場礼三氏（あいち小児保健医療総合センター循環器科）による『水泳と健康増進——水泳中の事故や不整脈について——』の講義が行われた。水泳は理想的な運動であり、スポーツ傷害が少ない反面、不整脈による突然死が頻繁に起こることが述べられた。不整脈が起こる原因としては、水中では陸上生活ではあまり見かけない不整脈が頻発するためである。このような不整脈による突然死を起こさないためにも、事前のメディカルチェックの必要性が述べられた。

同じく午前中に行われた研修の2つ目は、愛知水泳連盟理事・シンクロ委員長の鵜飼美保氏による『シンクロナイズドスイミングの競技について』の講義が行われた。競泳競技よりマイナーな競技であるため、初めて知る内容が多かった。また、採点競技であることの難しさについて述べられた。

午後の研修は、NPO 法人日本救急蘇生普及協会の指導員主導の下で心肺蘇生が行われた。本実技研修で行われた心肺蘇生法は、心肺蘇生法国際ガイドラインに則り実施された。研修では、「気道確保—人工呼吸—胸骨圧迫」までの一連の動作を繰り返し実施し、胸骨圧迫は100回/分以上のペースで実施された。また、自動体外式除細動器（AED）の模型を用いて、AEDの操作法について研修が行われた。

2. 研修の成果

水泳では、不整脈による突然死が起こることを想定する必要があるため、本学で水泳の授業を実施する際には、事故防止の観点から、学生に対しての事前のメディカルチェックが必要だと考えられた。また、本学のプールサイドに救急救命のための人工呼吸用マスクを常時設置し、AED がいつ何時でも使用できるように、定期点検をする必要性が考えられた。さらに、安全対策には万全を期すためにも今回のような研修会等で十分な情報収集と教員の指導能力の向上を行う必要性が考えられた。

さらに、本学で水泳の授業を実施する際には、シンクロナイズドスイミングで用いられる基本的な動作（シンクロバジテストで用いられている項目）を学習する機会を設けることで、シンクロナイズドスイミングの競技の普及につながると考えられた。

3. 授業への研修成果の反映状況

2013年度は、休講のため、次年度に開講される際に万全なる準備を行う。

学部長	FD委員長	FD委員会	名古屋教務課長	係
				